



タバコから守る歯と口腔の健康

健康を損なうタバコ

WHO（世界保健機関）の調べによると、タバコに関連した病気で死亡する人は、2003年には470万人になっています。そしてこのままの状態推移すれば、21世紀のはじめの20年間に1億5,000万人の命がタバコによって失われ、そのうち約70%を発展途上国の人々が占めるだろう、と予測しています。

タバコが危険因子となる病気

先進国では、生活習慣病と呼ばれる様々な病気にかかって死亡する率がますます高くなっています。タバコが病気と死亡の原因の第1位になる理由は、タバコが全ての生活習慣病に共通して危険因子にあげられているからです。がん、心筋梗塞、脳卒中や動脈硬化、高血圧をはじめ糖尿病、慢性気管支炎などの呼吸器系の病気や、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの消化器系の病気にかかる率も高めています。

毎日の喫煙によるがんの死亡危険度

タバコはさまざまながんの原因になり、とくに口腔がん、食道、喉頭、そして肺がんによる死亡危険度がたいへん高くなります。また胃がん、肝臓がん、膵臓がんなどでも、弱い因果関係が見られます。さらに大腸がんや乳がんなど、これまで関連がないと考えられていたがんについても、最近では関連があるのではないかという議論があります。（資料・計画調査1990平山雄、元国立がんセンター疫学部長）

タバコは発がんの原因になるばかりでなく、身体にさまざまな悪影響を及ぼします。ハーバード大学とWHOが1997年に発表した「人類の健康を脅かすキラー・ベスト10」では、タバコが12.1%と、先進国の病気と死亡の原因ベスト10の第1位にあげられています。

タバコが歯と口腔に与える影響

タバコは、歯と口腔にも大きな影響を与えます。まず口腔・咽頭がんの発生率が3.0倍になるほか、歯周病（歯ぐきの病気）にかかる率も高まり、しかも重症に進行する率が5～7倍になるというデータもあります。

さらに口臭の原因になったり、歯を汚したり、味を感じる味らいを刺激して食べ物の味を妨げる原因になったりします。

歯周病の最大の危険因子タバコ

歯周病の危険因子の中でも、タバコが最大の危険因子であること、喫煙者は、喫煙未経験者の4倍の確率で歯周病にかかりやすいことが、アメリカの研究者らによって明らかになりました。

ニコチンによる作用で歯周病が悪化

歯周病を悪化させる2種類の歯周病原菌と、喫煙、糖尿病、年齢などの危険因子を調査項目に選んで調べたところ、ヘビースモーカーほど、歯周組織の崩壊が急速に進むという結果が得られたのです。ニコチンには血管を収縮させる作用がありますので歯肉が炎症を起こしても出血が抑えられるので、気づかぬうちに病状が進行してしまいます。また歯根面のセメント質とよく結び付くため、スケーリングやルート・プレーニングなどの歯周治療の効果を台無しにしてしまいます。

さらに免疫機能を低下させ、歯周病への抵抗力も下がるので、間接的に歯周病を悪化させます。

タバコと歯の喪失

93年の厚生労働省の調査によって、喫煙者の歯は、時期的にも早く、本数も多く失われることが、統計的にも明らかになっています。

タバコと口腔のがん

タバコと口腔のがんには、密接な関係があります。口腔がんは、喫煙率に比例するように男性が女性の3～4倍も多くかかります。

口腔がんの中で最も多く見られるのが、舌がん（62.9%）で、次が口腔底がん（11.9%）になっています。そのほか、歯肉や口蓋、口峽部、唾液腺、頬粘膜などにもがんが発症します。

口腔のがんは、潰瘍や細胞の異常増殖、白色病変、粘膜の異常などの変化として表れますが、比較的見つけやすいところに発症するので、異常を感じたらすぐに歯科医師にみてもらうようにしてください。

柏歯科医師会では、毎年日本大学松戸歯学部の協力を得て口腔がん検診を実施しています。

詳しくはかかりつけ歯科医院でご相談下さい。



社団法人

柏歯科医師会

Http://www.kamukamu.or.jp

Email:kda@cc.rim.or.jp

